

## 後期基本計画の策定に当たって

### 1 策定の趣旨

令和元年度から令和10年度までを計画期間とする第5次西宮市総合計画は、「未来を拓（ひら）く 文教住宅都市・西宮 ～憩い、学び、つながりのある美しいまち～」を都市目標として基本構想に掲げ、まちづくりを進めています。この基本構想に掲げた将来像を実現するための基本計画は前期、後期の各5年間としています。

このたび、基本構想の実現に向けて、令和6年度から令和10年度までを計画期間とする後期基本計画を策定します。

### 2 第5次西宮市総合計画策定後の社会状況の変化や新たな課題

#### ●新型コロナウイルス感染症の拡大

令和2年より拡大した新型コロナウイルス感染症は、社会経済だけでなく、市民生活にも大きな影響を与え、生活スタイルや価値観にも変化を及ぼしています。市の施策においても感染症対策をはじめ、様々な分野でコロナの影響を受けており、コロナの影響を踏まえた取組が必要となっています。

⇒ 15 健康増進・公衆衛生、30 防災・減災

## ● ICT 化の加速と DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

新型コロナウイルス感染症の影響の一つに ICT 化の加速が挙げられます。さらに、ICT 化による単なる効率化や利便性の向上だけでなく、新たな価値や変革を生み出す DX の推進が求められています。

⇒ 35 執行体制

## ● 脱炭素社会の実現

令和 2 年に国は、2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。本市においても「2050 年ゼロカーボンシティ」を表明しており、実現を目指した取組の推進が求められています。

⇒25 環境保全、34 政策推進

## ● 地方創生の推進

まち・ひと・しごと創生法に基づき平成 27 年度に策定した西宮版総合戦略は、その理念を第 5 次西宮市総合計画に継承するとともに、その取組については、アクションプラン及び地域別アウトラインに統合・一体化しました。新型コロナウイルス感染症の拡大により少子化が加速している一方で、働き方の多様化なども動きもあります。国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を踏まえ、引き続き総合計画の下で地方創生の推進が求められています。